

主体的で深い学びを促すオンラインによる職業指導Ⅱの授業づくり

Creating Online Vocational Guidance II Lessons that Encourage Independent and Deep learning

高岩 千尋*

要 旨

高等学校教員免許「工業」の取得に必要な専門科目「職業指導Ⅱ」の指導について、オンラインによる非対面授業においてどのように学生に主体的に学びを促すか。授業の工夫や学生の状況など2020・2021年度秋学期の指導をもとに考察する。

キーワード：主体的で深い学び、オンライン授業、職業指導

1. はじめに

私は、高等学科工業科の教員を本業とする傍ら、大学において高等学校教員免許取得に関する科目を非常勤で担当しており、東洋大学（以下、本学）においては、2020年度より「職業指導Ⅱ」を川越キャンパス（理工学部）並びに朝霞・赤羽台キャンパス（ライフデザイン学部）にて担当している。

昨年度、オンラインを活用した職業指導の指導について報告した¹⁾。本稿では、昨年度からの経験を踏まえたオンライン方式での授業において、より学生に主体的に取り組ませる授業の在り方について考察する。

2. 授業の概要

2.1 2021年度、職業指導Ⅱの状況

2021年度、職業指導Ⅱは下記の状況で実施した。

科目名：職業指導Ⅱ（2単位・秋学期）
時間割：川越キャンパス 土曜日3限（13:10～）
赤羽台キャンパス 土曜日1限（09:00～）
授業形態：川越キャンパス・赤羽台キャンパスともに非対面オンデマンド動画を中心にした授業
テキスト：斉藤武雄・佐々木英一・田中喜美・依田有弘編著『ノンキャリア教育としての職業指導』（学文社、2009年 ISBN:9784762019241）
定価：本体2,500円＋税

履修者の状況

	川越キャンパス	赤羽台キャンパス
履修者	13名	5名
男子学生	11名	1名
女子学生	2名	4名
4学年	3名	1名
3学年	5名	4名
2学年	4名	—
科目履修生	1名	0名
工業科出身	5名	1名
普通科・理数科出身	7名	4名

※川越キャンパスは出身学科1名不明

※赤羽台キャンパス（ライフデザイン学部）は3学年以上対象。

2.2 オンラインによる授業の実施について

2021年度、職業指導Ⅱは川越・赤羽台の両キャンパスでオンライン・非対面科目として実施した。理由は主に以下のようなことである。

- ① 私の本務との関係で土曜日に開講したが、この科目を受けるために土曜日に登校させ、人流を増やすことを避けたかったこと。
- ② 新型コロナウイルスの流行に伴い、対面・非対面が流動的になるのがあまりよくなかったこと。
- ③ 2020年度の経験から、完全非対面でも大きな問題がなく授業運営が出来ることが分かったこと。
また、赤羽台キャンパスは、講義科目は原則非対面という大学の方針があった。

* 高岩 千尋

2.3 授業時間の計画

授業時間は、大学設置基準第21条並びに東洋大学学則第41条に「1単位につき45時間の学修を要することを標準とする」と書かれており、講義科目については15時間から30時間の授業時間を持って1単位とするとされている。そのため、職業指導Ⅱにおいては、予習・復習を含め以下のような学習を学生に求めた。

授業前	1 講義資料を印刷する。 2 テキストの指定するページを読む。 3 予習内容を確認する小テスト (ToyoNet-ACE ²⁾ 上) を解答する。
授業	4 前回のフォロー動画視聴 講義の際に出題した問題の解説及び履修者のコメント紹介、質問の回答 5 講義動画の視聴 (約15分×4本) 6 ペアワーク (3つのテーマ)
授業後	7 授業の感想を提出 (授業日メ切) 8 課題レポート提出 (翌週まで)

2.4 学生が主体的に学ぶための取り組み

オンライン授業では、対面授業に比べて学生が自分から行動する必要性が高くなる。

例えば、対面授業であれば資料は担当者が印刷し配布をしてもらえ、大学へ来れば勉強に集中できる教室が用意されている。オンライン授業では、そのようなことから学生が考えて行動する必要があるため、学生がやる気を持ち主体的に学習に取り組むことが非常に重要となる。

そのため、担当者として以下のような工夫や配慮を実施した。

① 講義資料の印刷と主体的な取り組みのための準備

講義資料は、教科日より (レジュメ)、ワークシート兼レポート用紙、講義動画スライド、その他法令の抜粋や履歴書・調査書などをToyoNet-ACEよりPDF形式等の電子ファイルで配布した。

教科日よりA4×4～5ページとし、学生が読みやす

く、印刷の手間や費用など負担が少なくなるように配慮した。また、資料の中に講義動画の何番目がどこから始まるのか分かるように記載を入れ、短く区切った動画と合わせて学習しやすいようにした。

② テキストの予習

授業に向け、シラバスに指示するテキストのページをあらかじめ読むように指示をした。これにより、授業の流れを理解し、各自が疑問点を持って授業に取り組むように促した。

③ 予習状況の確認

ToyoNet-ACEの小テスト機能を使用し、予習内容を確認する小テストを行った。これは、テキストをじっくりと読み込んでいるかの確認が目的であり、不正解の部分をしっかりと動画で学習しようと意識させることを狙ったことである。

試験問題は、正誤問題2題と択一問題 (3者もしくは4者択一) 3題とし、あまり時間をかけずに取り組めるようにした。

④ 前回のフォロー動画

前回のフォローについては、学生の感想を見て理解が深まっていなそうな事柄であったり、誤って伝わっているような事柄について再度説明を行った。また、他の履修者の感想や質問を紹介することで、履修者間の繋がりを少しでも持たせるよう工夫を行った。感想の文字数が多ければ良いと言うわけではないが、1回の授業に1000文字以上書いてくれる学生がいたため、これを全体に紹介し、他の学生も負けずと取り組むよう促すことも行った。

対面であれば、質問を投げかけその場で解説するようなこともオンデマンドであるため、あえて次の週に解説するような形式を一部取り入れ、答えを書き写すだけの学習活動とならないようにした。

⑤ 講義動画の視聴

講義動画は、YouTubeを使用して配信を行った。これは、無料で使用できることや多くの学生が使用経験を持ち、アプリケーションソフトウェアの操作に慣れていると思われること。視聴側の端末や通信環境に応じて、動

* 高岩 千尋

画の品質等を自動で調整してくれること。学生によっては、スマートフォンでカウントフリー契約をしている場合もあると考えたためである。

これ以外にもToyoNet-ACEが大容量のファイル添付ができないといった理由もあった。

なお、本学のアカウントではYouTubeの使用に制限があったため、個人アカウントを使用して配信を行なった。これについては、2021年春頃に対応が行われていたことを後から知り、申請の上、年末以降は大学アカウントによるYouTubeの使用も行った。

動画はスマートフォンでも見やすいように配慮することや学生の集中時間を考慮し、1つの動画を15分以下に区切ること、作業を取り入れることにより90分の授業時間のうち、60分程度に動画の時間を抑えるようにした。

授業で使用する動画スライドは、Microsoft PowerPointで作成し、文字フォントは様々な人へ配慮するためUDフォントとしたり、文字サイズを原則40ポイントとして大きな文字で作成することとした。

これにより、パソコンを所持していない学生や移動中に視聴をしたい学生であっても取り組みやすいように考えた。

⑥ ペアワークの実施

職業指導Ⅱでは、第2回～第13回目までペアワーク活動を行い、その内容をレポートで報告してもらうようにした。

これは、職業指導が様々な人の生き方に触れることが大切であるのと、2020年度は特にコロナ禍において人と会ったり会話をする機会が減っているため、関わりをあえて意図的に作るような要素もあった。

ペアワークは、この科目の履修者に限定せず、学生が自由に相手を見つけて作業を行えるようにした。学生のレポートを見ると、家族（親・兄弟姉妹）、友人など様々な相手を選択している状況であった。

実施方法は、オンラインによる方法と対面による方法を履修者が自由に選べるようにした。

オンラインでは、授業時間等に時間を設定し、希望す

る履修者間もしくは、履修者と担当教員でペアワークを行えるようにした。今年度は、履修者が3名以上集まる機会があり、Webex Meetingsのブレイクアウト機能を活用した1対1のペアワークを行った。

また、オンラインのペアワーク時間を設定することにより、オンデマンドが基本の授業であっても担当者にリアルタイムで質問する機会を設けたり、学生間のつながりを持たせることができた。

対面では、友人関係の履修者間で大学へ登校をした際に感染対策を行った上で自主的に行う場合や家庭内で家族と行う例が見られた。

⑦ 授業の感想と質問の提出

授業後は、授業の感想や質問をToyoNet-ACE経由で提出させた。昨年度は、授業日の1週間後までに課題に併せて感想や質問をレポートとして提出させていた。しかし、質問に対する回答が授業日の2週間後の動画となってしまうため、今年度は感想と質問についてのみ授業日に提出し、課題を授業日の1週間後までとする2段階制にし、すぐに質問へ回答を返せるようにした。

⑧ 課題レポートの提出

課題レポートは、授業日の翌週金曜日まで授業日を含めて1週間確保している。レポートについては、感想と課題のそれぞれに担当者より毎回コメントをつけ、ToyoNet-ACEから点数を付して学生へ返却した。オンデマンドでは、担当者と履修者の関わりが薄くなり学生のモチベーション低下が大きな課題となる。そのため、週に2回担当者からコメントが来ることでやれば反応があるという学習へ期待が持たせるようにした。

昨年度に比べ、履修者数が2倍でレポートの提出回数も2倍になったため、担当者の負担が非常に高くなってしまった。次年度に向けてレポートの実施方法について検討が必要である。

2.5 授業の配信

授業は、スライド（PowerPoint）に音声を吹き込み動画形式（MP4）にしたものをYouTubeに限定公開でUPし、

そのアドレスをToyoNet-ACEのコースコンテンツから周知した。

また、通信環境に心配のある学生への配慮として、音声ファイル（MP3）と授業スライド（PDF）での学習も可能なように対応した。これにより、学生の通信回線やデータ量の問題による影響を最小限に抑えるように工夫した。

講義動画は、その週の月曜日（授業日の5日前）に配信を開始し、授業日の感想・質問まで最大6日、レポートの提出まで最大12日確保するなど、学生が各自の都合に合わせて視聴できるように期間を長く設定した。

2.6 学生のオンライン受講環境調査

授業を行うにあたり、第1回目の授業において学生の通信や動画を視聴する環境について、以下のアンケートを実施した。

私は、オンライン授業を行う上で学生の受講環境を踏まえて授業づくりをすることはとても重要であると考えている。

（ ）内は、川越キャンパス・赤羽台キャンパス・合計人数である。なお、未回答者が3名いる。

質問1：みなさんの受講環境について

職業指導の授業をオンラインで受講する際、どこで受講をする予定ですか？前後の授業によって変更することもあるため、現段階の考えで結構です。

- ・自宅 (10+5=15)
- ・大学 (0+0=0)
- ・その他（以下に入力してください） (0+0=0)

質問2：オンライン受講の回線状況

①みなさんが受講に使用する回線はどれですか。

大学以外での受講の場合を想定。

- ・通信容量の制限なし (7+5=12)
- ・通信容量の制限あり (2+0=2)
- ・不明 (1+0=1)

②通信回線の速度はどうか？

- ・比較的良好 (8+1=9)
- ・時間を選べば良好 (2+1=3)
- ・あまりよくない (0+3=3)
- ・かなりよくない (0+0=0)

質問3：オンライン受講の画面環境

みなさんが受講に使用する端末の画面は？

- ・パソコン・タブレット・スマホ+TVなど
15インチ以上の大型サイズ (2+0=2)
- ・パソコン・タブレット単体の
10～14インチ程度の中型サイズ (8+5=13)
- ・小型のタブレットやスマホ単体の
10インチ未満の小型サイズ (0+0=0)

質問4：MP3ファイルの提供希望確認

回線状況やデータ使用量の関係等で、MP3形式の音声ファイルを使つての受講を希望しますか？

- ・MP3を使った受講希望あり（毎回） (2+1=3)
- ・MP3を使った受講希望あり（月末など状況により） (2+0=2)
- ・受講希望なし (6+4=10)

職業指導Ⅱでは、障がいやハンディを持っているなど社会的弱者に対する視点も学習するため、オンライン学習についても概ね全体が整っているから良いと言うのではなく、環境が整わない学生も取り残さない指導を大切に行った。

このような配慮を学生に示すことにより、学生が授業から疎外され、履修を諦めないように工夫した。

昨年度も同様のアンケートを実施したが、昨年度に比べオンライン環境が向上している感じが伺えた。

2.7 オンラインによる試験の実施

2020年度、ToyoNet-ACEの小テスト機能を使用し、正

* 高岩 千尋

誤・択一・組み合わせ・記述形式による試験を学期末に実施した。リアルタイムの一斉試験ではないため、問題の漏洩対策として、履修者全員に異なる問題を出題した。また、通信端末や通信回線のトラブルに対応するため、試験問題を細かく区切り複数の問題に取り組みせるようにした。

履修者には、事前に解答する問題番号を指定し、説明をよく確認した上で取り組むように指示を行ったが、ToyoNet-ACEの小テスト機能には解答者を指定する機能がないため、他人の問題を誤って開く例が数例あり、その度に新たに問題を差し替える事態が発生した。

2021年度については、私がToyoNet-ACEのマイコースを使う方法を覚えたため、学生に試験日の希望を取り、1日1人を私のマイコースに招待して昨年度と同じ出題形式の試験を行うこととした。また、私と学生の練習を兼ねて、第8回目の時期に中間試験を行った。

日程の調整は、Googleformを使用し、学生の希望を取ったうえでレポート提出が早い順に日程を埋める方法とした。希望する日に試験を受けるため、レポートを早く出すという事も学生のモチベーション向上に一部つながったと思われる。

試験は、指定された日の9時から21時の間で各自が好きな時間にできるようにし、マイコースの登録・解除をした際には、ToyoNet-ACEの個別指導より学生へ通知した。私は、21時から9時の間に学生の入れ替えと問題の公開作業を行った。

これにより、誤って他人の試験問題を開くことは無くなったが、履修者18名全員が試験を終えるまで最短で18日間かかる問題があった。さらにメンバーの入れ替えを期間中連日行うことになり、本務を抱えながら非常勤として実施するには少々負担が高く、次年度に向けてどうするか検討が必要である。

2.8 オンラインによる模擬授業の実施

本学では、工業の免許を取得するための科目に教科教育法(工業科教育法)が開設されていないこと。また、私

が高等学校の教員をしていることから職業指導Ⅱにおいて、模擬授業を実施することとした。

2020年度、非対面の受講を希望する学生がほとんどであったため、動画を提出しコメントをお互いにつける方式で模擬授業を行った。

模擬授業は、以下のような方法を見本として提示し、それ以外の形式による方法も可能とした。

- ① スライドに音声を追加する方法
- ② ノートや紙を黒板に見立て、スマートフォンで撮影をしながら紙芝居のように授業を行う方法
- ③ 大学の教室で撮影する方法

なお、授業を行う際に顔出しは不要ということをあらかじめ指示した。

授業内容は、職業指導の授業での学習内容を踏まえ、高校生を対象にしたキャリア教育の授業を行うとし(HR等を想定)、工業高校だけでなく普通科や総合学科の生徒を対象にした授業も良いこととした。

授業時間は、最低5分から最大10分とし、授業の導入や展開のみを行うスタイルとした。

模擬授業動画は、担当者が指定するクラウドのフォルダへファイルを提出するか、各自でYouTubeに限定公開でUPしURLを提出するかを履修者に選択させる方式を採った。

提出した動画は、担当者がYouTubeにUPすることとToyoNet-ACEのコースコンテンツよりリンクを提示することとした。

履修者は、お互いに動画の視聴を行い、ToyoNet-ACEから指定するフォームにコメントを提出する。なお、コメントをする際にはなるべく良いところをたくさん見つけることや批判をせず、改善点はもう少しこうしたらより良くなると書くように指示をした。

これは、教員免許を取得するための科目であるため、模擬授業をやる経験を大切にすることと、慣れないことをするため、不十分なのは当たり前で周りから認められることを大切にしたいという担当者の思いがあった。

授業後、全学生から集まったコメントを誰がコメント

したか分からないようにまとめ、ToyoNet-ACEの個別指導より担当者のコメントを添えて授業者ごとにフィードバックするようにした。

2021年度は、本稿執筆段階では未実施のため、2020年度に行った模擬授業のテーマを以下に示す。

自分のやりたい仕事を見つけるための職業についてのレポートの宿題の説明	インターンシップ後のHRでそれぞれの体験談を意見交換する授業
自分になりたい職業を探そう	工業高校建築科1, 2年生を対象とした進路説明会
夏休み前のHRで適正診断テストの結果を返却し、夏休み中に自分の課題を考える	進学に関するお金の話
労働法について	インターンシップについて学ぼう

2.9 レポートの提出期限とコメントの返却

今年度、レポートの提出期限を授業日（土曜日）23時と翌週金曜日（授業日を含めて1週間後）17時とした。

授業日の感想・質問については、当初、授業日いっぱい（24時）と考えていたが、大学教育に関わる教員のコミュニティで母親でもある大学教員からレポートの提出期限が遅い時間に設定されるとそれに合わせて子どもが寝るのが遅くなるとの書き込みを受け、23時という時間設定にした。

感想と質問については、週末に目を通し翌週の授業動画（月曜日配信）にて約半数の学生のものを取り上げ、動画内でコメントを行った。また、その後約1週間をかけて全員にコメントを返すようにした。

当初は順調にコメントを返していたが、8週目前後になり、いつもの授業配信と中間テストが重なり苦しくなり始めた。また、嬉しい悲鳴であるが、学生の感想が全体的にレベルアップし、読んだりコメントするのにかかる時間が増える状況であった。

さらに10週目あたりは12月で本務先が多忙になり、自

分のプライベートでも色々あり翌週までに全員にコメントを返しきれなくなってしまった。年末には解消することができた。

2.10 自分の考えを答える課題の出題

授業開始当初、授業動画を視聴する前もしくは1つ目の動画を視聴し終わった後にワークシートの演習（穴埋めや記述）を行わせ、次の動画でその解説をする形式を用いていた。しかし、途中から答えを書き写さず自分で考えた答えを提出させる機会を多く設けるようにし、次週の動画で解説する形式を採った。

こちらで学習状況を把握できるだけでなく、学生にとっても単純作業でなく、考える機会が増え教職に興味のある学生にとっては積極的な回答が見られた。

質問の例をいくつか紹介する。

- ・特進型の総合学科高校は、成功している学校が多いといわれる理由は何か考えよう。
- ・みなさんが高校生だったらデュアルシステム（在学中に企業で実習を受け、双方が合意すれば入社できる制度）を体験してみたいと思いますか？
- ・労働のルールを定める上で、男性・女性（最近ではそれ以外の性自認もありますが）の区別を無くすことは男女平等か？
- ・特別支援学校の指導例（講義で図を多用した清掃指導の例を取り上げた）を見て、工業高校の指導に活用するとしたらどんなことが可能か。
- ・終身雇用制度がなかったら、企業は社員の人材育成をどう考えるか？

2.11 電子メールを使用した即時性のある対応

私が非常勤講師であるため、オフィスアワーの代わりに大学から付与されている電子メールアドレスを履修者に公開している。

私は、ToyoNet-ACEを使った対応を原則としているが、学生からは添付ファイルがうまく提出できないとか、今

* 高岩 千尋

週の小テストが掲載されていませんなどの連絡が来ることもある。

いずれの方法であっても当日中に対応し、受講がなるべく止まらないような対応を心掛けている。

3. 学生の取り組みについて

3.1 YouTubeのアクセス状況の分析

YouTubeには、アナリティクスと呼ばれるユーザーのアクセス状況を統計データとして確認できる機能が標準で備わっている。

今年度、履修者が2キャンパスで18名と前年度より倍増したため、アクセス状況を分析してみることにした。(データは12/11時点のものである)

YouTubeのデータのため、MP3で受講している学生の状況は除外されている。

① 視聴に用いるデバイスと再生時間

履修者が授業動画の視聴をどのような端末で行っているか、以下のようになっている。

	視聴回数	総再生時間	平均視聴時間
パソコン	729	73.8	6:04
携帯電話	290	16.5	3:25
タブレット	11	0.9	4:55
ゲーム機	0	0.0	—
合計	1,030	91.3	5:18

※携帯電話には、スマートフォンや携帯型ゲームデバイスを含む。

上記より、視聴回数で見ると7割がパソコン、3割がスマートフォンを含む携帯電話で視聴しており、総再生時間で見ると8割がパソコン、2割がスマートフォンを含む携帯電話で視聴している。

これは、パソコンであれば自宅や大学で集中して動画を視聴しているが、スマートフォンであれば、移動中などの隙間時間に授業の一部を視聴する傾向が見られる。

② 視聴に用いるOSと再生時間

履修者が授業動画の視聴をどのような端末で行っているか、状況を以下に示す。

	視聴回数	総再生時間	平均視聴時間
Windows	654	67.7	6:12
iOS	292	17.0	3:30
Macintosh	75	6.1	4:51
Android	9	0.4	2:37
合計	1,030	91.3	5:18

上記より、多くの学生はWindows OSのパソコンを使用し、スマートフォンで視聴する際はほとんどがiPhoneで視聴していることが分かる。

授業当初のアンケートを踏まえて考えると、多くの学生が持ち運べる中型のノートパソコンとスマートフォンを併用していると思われる。

③ 授業期間と視聴状況

履修者が動画全体の何パーセントを視聴しているかというデータを平均視聴率で見ることができる。1回あたりの再生時間が低くても回数を視聴すればトータルの視聴は長くなるため、平均再生時間が短いからと言って悲観するものでもない。

2021年度は、10/30(土)が大学祭のため、10/31からの期間の再生時間数が減少している。

しかし、その期間であっても復習や遅れた課題の実施など、熱心に視聴している学生もいることが分かった。

また、後半になると平均再生率および総再生時間がわずかに上昇する感じが見られた。

週ごとの状況を以下に示す。

授業回数	期間	平均再生率	総再生時間
第1回	9/12-9/18	41.2%	6.98時間
第2回	9/19-9/25	44.1%	7.55時間
第3回	9/26-10/2	35.2%	5.7時間
第4回	10/3-10/9	39.8%	6.92時間
第5回	10/10-10/16	49.2%	7.47時間
第6回	10/17-10/23	46.7%	7.7時間
—	10/24-10/30	46.3%	7.42時間
第7回	10/31-11/6	38.7%	5.03時間
第8回	11/7-11/13	44.6%	8.06時間
第9回	11/14-11/20	39.7%	7.48時間
第10回	11/21-11/27	53.1%	8.61時間
第11回	11/28-12/4	52.5%	7.4時間
第12回	12/5-12/11	46.6%	7.24時間

※各期間の最終日が土曜日の授業日である。

YouTubeには、1つの動画の中でどの場面の視聴が多いとか、早送りをしているなど視聴状況の特徴をグラフから見るることができる機能がある。

分析にあたり、ワークシートの穴埋めや解答など、レポートに必要なところが視聴のピークになると予想したが、視聴の多さと場面の相関を見つけることができなかった。

これより、場面に関係なく視聴をする学生が多いことが分かった。

3.2 ペアワークの実施について

第2回から第13回の授業において、教職やこの科目に関する内容のペアワークを毎回3つのテーマで実施した。

ペアワーク終了後は、話し合いをした内容を以下の4つの観点から表にまとめて課題レポートとともに提出をさせた。

- ① 相手から聞いた話 ② 相手の話で自分が感じたこと ③ 自分が相手に伝えた話 ④ 自分の話に対する相手の反応

オンラインで行う場合、スケジュール調整サイト伝助³⁾を使用し、履修者間で誰がいつ出てくるのか分かるように情報共有した。

オンラインペアワークは、2021年度は私の都合に合わせて以下の時間を原則として実施した。

- ①土曜日10:00～(1限)
②土曜日14:00～(3限)
③土曜日19:30～

1限・3限については、それぞれ時間割が配当されるキャンパスの学生が主な対象となるが、オンラインであるため、キャンパスを跨いだ学生の学びを行うことができた。

参加者は、毎回決まって参加する学生が1名、ほぼ参加する学生が1名、数回参加した学生が3名程度であった。

ペアワークの際は、はじめに最近の様子を気遣ったり、学生の忙しさを確認するなど声掛けをし、その後は、参加学生が1ないし2名のときは担当者が話を進行するようにし、3名以上のときは、ブレイクアウト機能を使い学生間で話をしてもらったようにした。

ペアワークは、1回につき約30分の時間をかけて行ったが、色々な学生の話を知りたいとか担当者の話を聞きたい。もしくは相手を見つけるのが難しいという学生は参加を続けるが、忙しくなると早く終わらせられる相手を見つけるようで、後半になるとメンバーが固定化されるような状況であった。

昨年度、見知らぬ人と話するのが怖くて参加できないという学生がいた。

対面のペアワークでは、家族(親や兄弟姉妹)と行う場合と履修者間で大学へ登校した場合に行う場合が半々であった。

特にこの科目の履修者間で行う場合は、課題の説明が不要で、お互いに相手を見つけて行う必要があるため、話しやすくスムーズにできる相手と毎回行う例が多く見られた。

ペアワークのテーマ例を以下に示す。

- ①高校で受けた進路指導(いつ、誰から、コース選択など)(第2回)

*高岩 千尋

②同級生のキャリア：みなさんの同級生で、中卒・高卒・短大・専門学校卒業など、すでに社会人となっている友人のことについて（第3回）

③コロナ禍における大学選び。みなさんが進路指導担当だったらどうするか。本学の取り組みをどう評価するか。（第4回）

④後期が始まって1か月。現在のみなさんの困っていること。悩んでいること。

⑤工業高校で進学に対応した学科や授業の編成をしたら入学希望者は増加するか？（第7回）

⑥高校教諭のA先生は、昼休み中に勉強を教えて欲しいと来た生徒に休憩時間（勤務時間外）だからと指導を断った。みなさんは、この対応をどう思うか。また、みなさんだったらどのような対応をするか。

⑦障がい者雇用に関する法定雇用率を引き上げるとどんなことがおこるか。（第10回）

⑧みなさんが経営者（雇用側）であったらば、終身雇用と年功序列、企業内教育と人材育成など、どんな会社を作りたいですか。利益と経営のバランスを考えてみてください。（第11回）

⑨高等教育の修学支援新制度は、学ぶ意欲のある学生の支援に効果があるか？制度の課題は何か？（第12回）
ペアワークでは、授業のその回で扱ったものを中心にテーマ設定を行うが、時にはお互いの悩みを出し合うなど、大変なのは自分だけでないという共感を得るためのテーマを設定することもあった。

3.3 レポートのコメントに見る学生の反応

履修者からは、この科目や自分の将来に向けて大変前向きであったり、非常に真剣に向き合う姿勢が感じられる。記名式で採点されるレポートであることを差し引いてもこのような姿勢で教師の仕事であったり、授業に向き合ってもらえることは非常にうれしく感じられる。以下に学生のコメントを抜粋して紹介する。

・授業のレポートに先生が丁寧に返信くださっていつも嬉しく思います。人数が少ないとは言え毎回「え、こ

んなに沢山！」と驚きます。（第2回）

・進路選択の教師が中心となる選択か生徒が中心となる選択かについて、一見私は教師ではなく生徒が中心となる選択をさせようという授業内容で終わると思っていた。しかし、それぞれの良い点と悪い点を考えることで目指すべき進路選択の方法を考察できた。（第2回）

・ペアワークが円滑に進んで楽しかった。来週も楽しみになった。（第4回）

・今回のペアワークで、納得する意見や同意する意見があり、とても話が盛り上がった。また、母校での特徴的な進学についても、おもしろいエピソードが聞けて良かった。（第4回）

・今までぼんやりと感じていた先生方の多忙さを、今回の授業の職業指導の年間実務など見て明確に理解した。その中でとても良い進路指導をして下さった当時の担任の先生に非常に感謝する。（第6回）

・統一応募用紙と求人票についてである。統一応募用紙では、必要のない項目や、身内の関係などは記載する所がないことがわかりました。本人の評価だけで、就職先の面接に行けることで、平等に合否を企業側が決めることになるのでとても良いことだと感じた。（第6回）

・自分も教師の仕事を目指しているの、第7回のフィードバックで教師の仕事に関しての話は、自分の将来の話をしてもらっている感覚になりました。（第8回）

・私は今まで、塾のアルバイトという形で子供たち多く関わってきました。そのなかのほとんどの子供たちは、間違えることが怖い・間違えたくないから発表しない・失敗するのは嫌だという考えを持っていたように思えます。（第12回）

・講義動画で紹介されていた中間テストの事について初日に受けた方が良くできていたため安心してというコメントを頂けてうれしかったです。（第7回）

最後のコメントについては、この学生が非常に熱心に毎回取り組んでおり、個別のコメントで頑張りを評価する以外に全体の動画でもコメントを送ったことに対する次の回での感想である。直接顔が見えない関係であってもしっかりと担当者の気持ちが届いているようで手応えを感じられる場面であった。

しかし、顔の見えないコミュニケーション、また、初めて担当する学生に対しては、教職科目の履修者であっても全てがうまく行くとは限らない。

2021年度、初回の授業に短いコメントを残し、以後全く参加をしなくなった学生が1名いた。

彼は、「ワークシートはYouTubeタレントを職業としてどう見るかといった面白い質問があり自分の意見を構築するいい機会になった。しかし、特に意義を感じないワークもあったため作業感を感じてしまった。」とのコメントをしている。

第1回目の授業では、大半の学生がテキストを準備できていないため、ガイダンスや工業高校、高等学校に関する話題、人生における選択などを扱う導入を行った。また、職業について考えるひとつとして、動画配信タレントやデリバリー配達員はみなさんの就職先や職業として問題があるかという質問をした。

私は、彼がこの授業に何を期待していたか短い文面からくみ取ることはできなかった。しかし、このような学生にこそ、職業指導が必要であり、次年度に向けてより学生の意欲を高める指導を行っていきたいと感じた。

4. 終わりに

職業指導Ⅱについて、2年間の経験を通じて振り返ると教職の仕事であったり、インターンシップや就職の幹旋など学生にとって身近な話題が多く、自分の問題として向き合っている人が多くいると感じられた。

私が現職教員であることや学生がメディアの影響で教師の仕事がブラックというイメージを強く持っているため、教師の労働に関する感想や質問が多く見られ関心の高さが感じられた。

また、教師をやりたいが不安である・自信がないという意見であったり、今年は4年生の履修者も数名いたため、教育実習で大変さを実感したとの意見も見られた。

教師の仕事について、長時間労働の事実は事実として伝えた上でなぜそのような背景であったり、働き方改革や今後の方向性など、履修者が期待や夢を持てる講義を心掛けた。

今回、昨年度の非対面授業の経験から、様々な学習上の課題についてハードルを低くし、学生が意欲的に取り組めるよう配慮を行った。

大学の授業において、また、教師を目指す学生に必要な以上の配慮は本人のためにならないという見方もある。しかし、学校教育においてユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりといった考え方がある。

配慮の必要な学生のための授業がすべての学生の分かりやすい授業になるという感覚であり、オンライン授業においても環境の整わない学生への配慮が全学生にとって授業を受けやすい環境につながると考える。

今年度、昨年度の経験を踏まえやり方を少し変更したが、思ったよりも自分の負担が高くなってしまふ課題があった。

よりよい授業を目指しつつ、担当者の負担をどのように軽減するか、履修者に身をもって示せるよう改善を行っていきたい。

参考文献

- 1) 高岩千尋：オンラインシステムを活用した科目「職業指導Ⅱ」における教員養成，東洋大学教職センター紀要（3），pp29-38,2021.3
- 2) 本学の学習管理システム（LMS）、朝日ネット社のmanabaと呼ばれるものを使用している。
- 3) 伝助（スケジュール調整サービス）
<https://www.densuke.biz/>（2021.12.11確認）

* 高岩 千尋

主体的で深い学びを促すオンラインによる職業指導Ⅱの授業づくり